

会 見 記 録

件名	令和4年10月12日町長定例記者会見
日時	令和4年10月12日(水) 11:05~11:25
場所	丸森まちづくりセンター視聴覚室

出席者

- (町) 保科町長、佐々木副町長、大内総務課長、長門企画課長、穴戸商工観光課長、引地農林課長、八巻建設課長、谷津災害復旧対策専門官、佐藤復興対策室長、阿部復興対策室長補佐(司会)

■保科町長

本町に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風災害の発生から、本日で3年を迎えるに当たり、先ほど、滞りなく町の追悼式を挙行いたしました。

尊い命を落とされた皆様とその御家族に心から哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

町政史上最悪の出来事となった災害から本日に至るまで、国、県、全国の自治体及び各関係団体の皆様からの深い御理解と多大なる御支援を賜りましたことにより、復興に向けて着実に前進しており、この場をお借りして心から厚く感謝申し上げます。

本年度においても復旧・復興が着実に進んでおります。台風により被災した「町営竹谷住宅」の建設工事が完了し、7月24日に入居者の皆様をお招きして入居式を開催しました。また、9月30日には、本町の主要な道路である「県道丸森霊山線」が全面開通し、地域の皆様とともに開通を祝うことができました。いずれも、住民の皆様の笑顔に接し、また1つ復旧・復興を成し遂げたものと胸をなでおろしたと同時に、更なる復旧・復興、被災された方々の継続的な支援に向けて決意を新たにいたしました。

令和元年東日本台風災害から3年目となる本年度は、丸森町復旧復興計画の中間の年度であり復興期の開始年度でもあります。「復旧」に向け加速していくと同時に、町が「復興」に向かっていることを発信していく年であると認識しており、町民、特に若い世代が、町の未来に対し期待感を持っていただくことが、大変重要であると思っています。

このことから、復興後の町の姿を内外に発信すべく、掲示しております「次代につなぐ新たな(丸森)まちづくりマップ」作成しました。国道349号の山側ルート、五福谷川をはじめとした河川の堤防強化や遊砂地、河川防災ステーション等を掲載することにより、新しい町の姿をイメージしていただくものです。

役場庁舎をはじめ、町内小中学校や公共施設に掲示したいと考えており、今後は、1年ごとに内容を更新していく予定としております。

加えて、本年も、台風による被害の風化防止や、あらためて町民一人ひとりが復興の主体であることをお伝えするため、会場に掲示しておりますポスターを作成しました。次世代へ向けた大人の決意をテーマとしたものであり、本年も県内の公的施設をはじめ、多くの施設に配布する予定です。

また、本町における復旧・復興事業の進捗状況を分野毎にとりまとめた「復旧・復興の進捗状況」をお手元に配布しております。最新の数値に更新しておりますので御確認願います。

今後も町の復興が、町民により身近に感じられるよう、国・県とも連携し、各種事業の早期完了に向けて進めてまいりたいと存じます。事業の進捗過程では、町民の皆様には、御不便をおかけすることもございますが、何とぞ御理解、御協力をお願いしたいと存じます。

鎮魂の日である今日、決意を新たにし、町一丸となって、より良い復興、さらには持続可能なまちづくりに向け、全力で取り組んでまいります。引き続き、御支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。私からは以上です。

(質疑応答)

◇Q 資料「被害状況及び被害調査・被災者生活支援等一覧表」中ののみなし仮設住宅の契約状況について、「契約件数」は「入居世帯数」と同じ捉え方で良いか。

■復興対策室長

お見込みのとおりです。

◇Q 仮設住宅の方に話を聞くと、当時を思い出してつらいという方がまだまだ多くいる。そういった方の心のケアを今後どのように進めていこうと考えているか。

■町長

仮設住宅に入居されている方におかれましては、災害時から不自由な生活を送られているということで、昨年は私も訪問させていただきましたが、社会福祉協議会を初めとした支援団体と連携しながら、住民相互の交流を深めるような取り組みを行っております。その中で出てきた課題については、解決に向け進めていかなければならないと思っています。

そういった話が出てくるということは、まだまだ足りない部分があると思いますので、仮設住宅の方のお話をお聞きしながら、新しい住宅の入居に向けたサポートを行いたいと考えております。

◇Q 資料「次代につなぐ新たな丸森づくりマップ」について、若い方が期待感を持てるようなものになったか。

■町長

災害が多い丸森町においては、将来を見据え、安全、安心が確保できるということが一番大事だろうと考えています。

町内の各事業による防災対策や、今後町のゲートウェイとなる丸森河川防災ステーション等について、若い人にも一緒になって考えていただきたいと思います。

そうした中で、老若男女問わず、「ここに住んでよかった。」と思えるような地域づくりを目指しながら進めていきたいと考えています。

◇Q 昨年一年間で、復興に向け大きく進んだところと進んでいないところを教えてください。

■町長

中山間農地の復旧はまだまだ進んでいない部分が多いものの、平野部については作付けをすることができました。また、県による丸森霊山線の開通や、町営竹谷住宅の完成などが大きく進んだ部分だと考えています。今後も、一日でも早く皆さんが安心して暮らせるよう各事業を進めていきます。

◇Q 復興を進めていく中で、現時点の最も大きな課題は何か。またそれに対しどのように取り組もうと考えているか。

■町長

国の交付金が令和5年までということで、町の工事をその期間内に完了したいという思いはあるものの、町の被災箇所数が2,904箇所と膨大であり、箇所によっては終わらない恐れがあります。

関係機関や業者の方の御協力をいただきながら、事故のないよう一日でも早く工事が完了できるよう進めていきたいという思いです。

◇Q 住宅被害の件数について、町の資料だと1,068件だが、県は1,067件となっている。

■復興対策室長

遑って罹災証明書を発行したケースが1件あったため、その1件が県に伝わっていないためだと思われる。

町でとらえている数字は1,068件のため、この数字を使用させていただきようお願いいたします。